



<協働活動で水田の除草>



Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>



ならやまプロジェクト	1	私の日常！？・・・それとも非日常！？	7
Monthly Repo ならやま	2	豆知識（家庭菜園ー2）	8
里山の今（パトロール・果樹）	3	ならやま投句箱	9
月例研修会（伊吹山）・レポ	4	行事案内・きのこだより	10
里山で遊ぼう・レポ	5	幹事会報告・編集後記	11
わが人生のキーワードは「朝鮮・韓国」	6		

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて

8月は台風による倒木、倒竹の処理に時間がとられた。老木が多いせいか一瞬の突風でも大木が倒れた。天候の急変には今後とも注意が必要だ。台風が過ぎても一向に暑さは収まらない。夏台風は太平洋の暖かく湿った空気を呼び込み、まだまだ熱中症には気を付けなければならない。

暑さのせいか今年の農作物の出来が思わしくない。加えて、収穫を楽しみにしていたナスが盗まれた。手をかけて育てた人たちの気持ちを踏みにじるような心無い人がいることに怒りを感じる。

でも耳を澄ますと庭では秋の虫の鳴き声が「もう少しの我慢だよ」と励ましてくれている。9月からは子どもたちを迎えるイベントが予定されている。子どもたちとともに秋の実りに感謝できるように今が大切な時期、力を合わせて乗り切りたい。



自転車道を越えて田畑に倒れた大木
(8月24日)

9月の活動特記事項 夏時間(9:00~12:30):7月6日から当分の間

9月7日(木):協働活動(アダプトプログラム)

9月23日(土):こどもゆめくらぶ里山体験イベント(雨天順延:9月30日(土))

9月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	倒木処理、里山林内整備(No.23,24付近)、薪割り、間伐丸太材加工 下草刈り、イベント準備 ユート:アカマツの森でのマツの間伐・草刈り
エコファーム	野菜の種まき準備、 ダイコン種まき(YRくらま、丸大根、コカブ、紅心大根など)、薫野菜類種まき(大和マナ、菜花、ホウレンソウ、春菊、レタス、チンゲン菜など)
景観	整備:ベースキャンプ周辺草刈り、備品点検整理 ミツバチ巣箱整備、テント補修 ビオ:池・水路の環境保全・整備、イベント準備 花:山野草園、道路周辺の花壇草引き
パトロール	1~3コースパトロール、観察路整備、笹草刈り イベント準備
果樹	果樹の軽剪定、お礼肥の施肥、クリ・柿の収穫 実りの森の除草

活動日:毎週木曜日 9:00~12:30(夏時間:7月から当分の間)

前日の19時現在の気象庁予報(NHKTV 奈良 19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌日、翌日も同予報であれば中止



Monthly Repo. ならやま

富井 忠雄

7月22日(土) 晴 子ども・父兄 47名+
33名

イベント(夏だ休みだ里山で遊ぼう)を開催した。

7月27日(木) 晴 63名

今年一番の暑さとなり、熱中症に注意して活動。第2駐車場で鹿の目撃情報があった。

里山Gは遊びの森遊具の片付け、植樹エリアの下草刈り。エコGは水田の除草、ナスなどの収穫。景観Gは彩の森の草刈りなど。花班はアジサイの剪定。ビオ班は草刈りと水路の補修。パトロールGは1コースパトロール、観察路階段補修。果樹Gはブルーベリー収穫、除草など。

8月3日(木) 晴 64名+2名

協働活動として、エコGが中心となって水田の草取りを行う。京都大学の徳地先生と学生1名が来訪し、ならやま里山での研究協力について打ち合わせ。



里山Gは丸太材加工、植樹エリア下草刈りなど。エコGは水田の除草、ピーマンなど収穫、カボチャ畑などの除草。景観Gは彩の森、梅林などの草刈り。花班は自転車道沿い草引きなど。ビオ班は葦の刈取り、ビオエリアの草刈り。パトロールGは観察路2コースのパトロール、観察路の草刈り。果樹Gはブルーベリー収穫と除草など。

8月10日(木) 晴 臨時活動日 24名+
近大生3名

今日は夏休みで定例活動は休み。田貝の定期調査日にあたり近大生3名が来訪し、ビオ班が対応、あわせてビオエリアの水路の防護柵作りを行う。また、エコGの12名が事前に案内していた夏物野菜ピーマンなどの収穫・提供。

8月17日(木) 56名

夏休みの後で参加者が少なかった。15日の台風7号でならやまのフィールドに被害があった為、倒木処理、掃除などを行う。



里山Gは自転車道の倒木の処理、薪棚の倒木処理、竹林の整理、下草刈りなど。エコGは台風の影響で壊れた鹿ネットなどの修復、カボチャ、スイカなど収穫。景観Gは台風7号の被害の後処理、真竹林の倒れた竹100本ほどの処



理。花班は台風で落枝などが散乱する自転車道の掃除、山野草園の草引きなど。ビオ班はビオトープ内の水路の点検、修理、ザリガニの駆除など。パトロールGは台風の倒木処理、観察路1コースのパトロール、自然教室で使う工作の材料作りなど。果樹Gは自転車道の倒木処理、実りの森の除草など。

パトロールグループ

菊川さん

～パトロール班にて～



果樹グループ

ならやまの秘酒「リキュール・波々迦」

木村 宥子

鈴木さんが菊川さんの卒寿を祝ってご紹介くださっているが、私達パトロール班も菊川さんの活動の一端をご紹介したいと思う。

何時からだったろうか、車ではなくサイクルヘルメットにEバイクでカッコよく決めて、さっそうとならやまに来られるようになったのは。実に若々しい。年を取るならこのように、と密かに思う。



山の中は最近特に良く整備されてきた。特にきつい坂には手すり用ロープが張られ、安心して歩ける。これには菊川さんの力が大きい。もちろん、我々パトロール班も一年を通し

て階段などの修理、覆うばかりに生える笹刈り(時に山班の力もお借りして)、希少植物の管理、名札付け、皆さんへの紹介等々、仕事は次々にある。しかし、菊川さんはそれに加えて、コツコツ細かい所も積み重ねてくださる。山の中の作業を円滑にするために、階段用横木の収集や無数に必要な杭作り、それらを山に運ぶための背負子の制作も菊川さんの力が大きい。

菊川さんが昆虫や虫に詳しいこともよく知られている。黄色いコシアブラの葉を通して差し込む朝日の下、地上2尺あたりを飛び交う無数のフユシャクガの幻想的な風景を見せて下さったのも菊川さんだった。

今日も山の仕事を終えて、さっそうとEバイクで帰途に就く菊川さんである。

古川 祐司

我家の床下物置きを整理していたら古い酒瓶が出てきた。ラベルに「ならやまの秘酒・リキュール・波々迦」(平成23年7月)とある。様々な果実酒に挑戦した頃の遺物である。

「波々迦」は「ウワミズザクラ」の古名である。春、ブラシのような形の白い花が舞い踊るように咲いて、夢幻的な風情を見せる。古事記では霊力を持つ木とされ、現代でも天皇即位の際行われる大嘗祭では、天の香具山にあるウワミズザクラの枝が採取され、斎田を占う亀卜の神事に供される。ウワミズザクラの酒は不老長寿の酒であったという人もいる。

ならやまには、ウワミズザクラが自生している。十数年前の夏、赤く熟した実を集めて果実酒を造ったことがある。これを「ならやまの秘酒・リキュール・波々迦」と名付けて、忘年会等で試飲していただいた。当時はクマリンの香が強く、少数の人を除いて、大方の好評は得られなかった。その時の飲み残しが物置にお蔵入りしていたという次第だ。

この瓶の酒を味わってみて驚いた。十数年の歳月が風味を大化けさせていたのだ。その昔、森林インストラクターの大先達が、「最高の果実酒、ナポレオンにも勝る」と評していたのも頷ける。これなら不老長寿の酒と銘打っても恥ずかしくない。

ただ、誠に残念なことに、瓶の酒の残量は僅か。今から考えれば、あの時一年限りで早々に見切らないで、数年間は作り続けておくべきだった。臍をかんでも後の祭りだ。

若い会員の皆さん、ウワミズザクラの不老長寿酒造りに挑戦してみる人はいませんか。

月例研修会
伊吹山の高山植物観察と
醒井散策・レポ

戸田 博子

8月1日暑さ最高の時に、涼しさを期待して、お花が最盛期の伊吹山と醒井宿の梅花藻を見に28名でデラックス・バスに乗り出発しました。

平日なので、京滋バイパス・名神高速はトラックで混んでいましたが、関ヶ原インターで降りてからは順調に進み、伊吹山頂上駐車場にはほぼ予定通り到着しました。



頂上を目指して1kmの西登山道へ鹿よけフェンスの扉をくぐりました。固有種の植物を守るため、柵が張り巡らされた道です。個人的に40年前に初めて伊吹山に登った時は、柵などありませんでした。伊吹山は霧や雨がおおく眺望が難しい山でしたが、今回は若狭から琵琶湖・比良山系がとてもよく見えました。



登山道中ほどからルリトラノオ・クガイソウの紫が鮮やか、固有種のイブキ

トラオノオの白も風に揺れていました。そしてピンクのシモツケソウの大群落はさすがにきれいでした。



写真も撮り、足元注意も大事、メンバーの姿も探したりと忙しく歩き、息もあがっ

てきたころ、頂上の小屋に着きました。12時にはほぼ全員到着しました。ここではイブキジャコウソウが群生していました。



イブキジャコウソウ
メンバー各自お昼ご飯を楽しみ、ビール飲む人あり、

カキ氷を頼む人ありと自由な時間です。

下山も自由で、短い0.5kmの中央道、距離1.5kmの東登山道と各自のペースで降りました。

伊吹山の空気を堪能した後、今日の二つ目のお楽しみ米原市の醒井宿に向かいました。醒井宿は中山道61番目の宿場町で、地蔵川に沿って町が作られ、歴史的な背景や古くからの宿場の町並みが遺されていることから、日本遺産にも指定されています。



この川にキンポウゲ科の梅花藻の花が最盛期を迎えています。涼

しげに水の流れるに揺れるたくさんの白い花が咲いてしばし暑さを忘れました。



また、梅花藻を産卵場所とする絶滅危惧種の淡水魚ハリヨが生息しています。今日の月例研修会は、絶滅危惧種を求めて山・川と巡り、勉強しました。

最後バスの中で、お世話役の小島さんより「頭の体操」クイズが始まりました。

難解「四字熟語」で頭を柔軟にすることと、知識を必要とするクイズです。

暑くても、楽しい一日でした。

里山で遊ぼう・レポ

山本 隆造

7月22日(土)「奈良県山の日、川の日」の協賛イベントとして、「夏だ! 休みだ! 里山で遊ぼう!」を開催しました。

猛暑の中、幼児を含む子ども24名、保護者23名、計47名の参加者とスタッフ33名のイベントでした。

9時半の受付開始前から参加者が来場し、子どもたちは早くも捕虫網を振り回し蝶など追いかけています。

10時からの開会セレモニーを終え、午前中予定の「飯ごう炊さんとカレー作り」に取り掛かります。4班に分かれ、各班世話役の指導の下、お米の準備、火起こし、野菜の準備など役割を分担します。お米をといだり、マッチで火を付けたり、慣れない手つきで野菜を切ったりと、普段あまりやったことのない体験に子どもたちは夢中です。

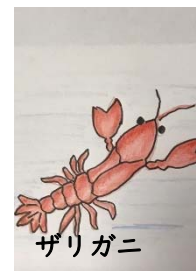


野菜の準備もでき、飯ごうでご飯もきれいに炊き上がりました。スタッフの協力でカレーが出来上がり、予定時刻に昼食です。自分たちで作ったカレーは格別のように、「おいしい!おいしい!」と、お代わりの列が続いて大好評でした。



午後は気温も上がり熱中症警戒指数も上昇したため、予定していた昆虫採集は中止し、ビオトープの水生生物観察と里山遊びを2班に分けて行いました。

ビオトープでは、担当者から水生生物の話聞いた後、池に網を入れエビ、ドジョウ、ザリガニなどの生き物を捕まえました。何度も網を入れる子、恐る恐るザリガニに触れようとする子、大きなドジョウを捕まえて自慢げな子、暑い中子どもたちの笑顔がはじけます。



里山遊びは、緑陰広場からロープを伝って急坂を登ります。滑りやすい急坂を苦労しながら登りついた先は遊びの森です。遊びの森では、丸太渡り、木登り、ブランコ、ハンモック、ミラーウォークやダルマ落としなど、時間いっぱい楽しみました。



お土産にジュズ玉のブレスレットと鹿の折り紙に加え、目玉のカブトムシ雌雄1対を虫かごに入れ、最後は残ったカブトムシのつかみ取りに子どもたちは大はしゃぎです。

予定の15時より少し前、大きなトラブルも



なく無事終了することができました。

事前の準備、当日のお世話、会員およびス

タッフの皆さま、暑い中お疲れさまでした。

わが人生のキーワードは 朝鮮・韓国

吉川 利文

人生にキーワードとかテーマがあるとすれば、私の場合、「朝鮮・韓国」である。

まずは小学生のころの不思議な体験。母に連れられ、母の古い知人宅を訪ねたときのこと。太平洋戦争中の昭和19年、父が鐘紡の朝鮮・平壤工場に就職した時、国内では学童疎開が始まった。「家族がバラバラになるより」と、疎開代わりに母、子どもたち4人の家族全員が父のいる平壤に移り住むことになり、平壤の鐘紡の社宅に入った。私はその時2歳。

母の古い知人というのは、同じ社宅マンションに住んでいて、家族ぐるみで親しくしていただいた方で、戦後引き揚げて大阪にある鐘紡の社宅マンションに住んでおられた。我が家も大阪に移住したのを機会に再会することになった。

奇妙なことに、私はそのマンションの階段を上っていて、ここはいつか来たところだ、と思い始めた。母にそのことを言った。母は首を傾げ「ここへ来るのは初めてだけど…」という。「でも、造りは平壤で住んでいたマンションと全く同じ」と付け加えた。2歳児の脳裏に焼き付けられた残像が蘇ったのであろう。

次のご縁は大学の卒論。私が在籍した大学の専攻科目は東洋史だが、朝鮮史なんて分野はない。でも私は迷わず、卒論のテーマに朝鮮現代史を選んだ。幼時になじんだ朝鮮を知りたかったのである。タイトルは「1894年の朝鮮東学農民戦争」である。朝鮮王朝の圧政に対し、農民たちが武装蜂起し、一時、朝鮮半島は内戦状態になる。これに介入した日本と当時の中国・清とが衝突して日清戦争となった。農民の武装蜂起を指導したのは、東学党という宗教団体の全瑛準という人物。卒論はまるで「全瑛準物語」だが、私は彼を資料の写真でしか知らない。

ところが、彼と不思議な出会いをする。2018年

10月。ホームステイを通じて市民レベルの国際交流活動をしている団体のメンバーとして私と妻は韓国ソウルの市民宅にホームステイした。そんなある日、ソウル市内のとある街角で、民族衣装の老人が立て膝で座っている銅像を見つけた。台座には、像の人物を「全瑛準」と刻んである。なんと半世紀ぶりに、ソウルの街角で卒論の主人公に出会った。

「朝鮮・韓国」とのご縁の極めつけは、現役時代の新聞記者としての報道である。

1975年11月、当時の韓国の軍事独裁政権下で、在日韓国人の青年、学生らの母国留學生が続々と「北朝鮮のスパイ」という容疑で逮捕・起訴される事件が発生。その後約10年間に約160人が逮捕・起訴された。被告やその家族らは一様に「無実だ」「政治的なでっち上げだ」と主張する。朝鮮・韓国にゆかりの私としても放っておけない。念入りに取材した。が、容疑らしいものは浮かんでこない。調べるほどに、私も彼らが無実であるとの確信を強め、同僚があきらめるほど克明に報道をし続けた。

逮捕された人たちは裁判にかけられ、有罪判決を受けた。うち5人に死刑判決が出て確定した。いつ処刑されるかわからない状況になった。ところが、この5人はなぜか一向に処刑されなかった。

1987年以降の民主化された政権下で、再審裁判が開かれ、次々と有罪判決が覆り、逮捕・起訴された人たちのほとんどが無罪となり、家族の待つ日本に帰った。5人の死刑確定囚も、である。

2019年6月28日、朝日新聞の社会面に2段の控えめな記事に私は驚いた。わが国で開かれた主要20カ国・地域首脳会議(G20サミット)に出席するため来日中の韓国文在寅(ムン・ジェイン)大統領が、在日韓国人との懇談会の席上、この事件について触れ、「独裁権力の暴力に深く傷ついた在日同胞の被害者と家族に、大統領として国家を代表して心から謝罪する」と語ったという。報道しているころ、内心不安がなかったわけではない。これで完勝だ。記者冥利に尽きる。

「朝鮮・韓国」は、わが人生を面白くにも、不思議にもしてくれた。カムサハムニダ(ありがとう)。

私の日常！？・・・

それとも非日常！？

～ミヤマキリシマ紀行～



山上 伸子

担当の方から執筆依頼があったものの、はて何を書いたものやら・・・皆さんのように特に夢中になっていることもなく、人様に誇れるようなこととてない・・・そうだ！！5月下旬に山友と出かけた山の話にしよう！

メンバーは寡黙な山ヤのヒオさん、力自慢のコゴセさん、ただいまギックリ腰のウンミちゃんと私の4人。九州くじゅう連山の立中山（たちゅうさん）と大船山（だいせんざん）にミヤマキリシマを見に行くことに。

大阪南港からフェリー乗船、翌朝別府港到着。長者原（ちょうじゃばる）登山口へ。

ギックリ腰のウンミちゃんの荷物の一部を力自慢のコゴセさんが担いでいざ出発。約2時間歩いて坊ガツルへ。

かの地は知る人ぞ知る芹洋子さんが歌った「坊がつる賛歌」（人みな花に 酔うときも♪ 残雪恋し 山に入り～♪）で有名。温泉もあり、山ヤにはなかなか環境のよい所なのだ。

荷物を置いて立中山（たちゅうさん）まで小一時間、ヒオさんはまるで散歩のような軽快な足取り、聞けば九州は地元の山とのことで今回はレンタカーの運転もかって出てくれた。

コゴセさんはガンガン登り、ウンミちゃんはギックリ腰とは思えないほど軽快な足取り。私は後ろからエッチラオッチラ付いて行く。途中マイヅルソウやリンドウ、イワカガミが咲いていて素敵だ。峠からの尾根道はお目当てのミヤマキリシマが可憐なピンクの花を咲かせている。小さい花、三分咲き。

法華院温泉までもどり夕食までアワアワタイム。食堂の看板には「今日の反省代」とある。生ビール700円なり。コゴセさんもヒオさんも酒豪、ウンミちゃんは超酒豪、なかなかのメンバーたちだ。温泉は単純硫黄泉。山荘は満員、

大部屋は200人ほど入っているのではないが、ツアー客も多い。



翌日は5時半出発、大船山へ。最後の一登りは急斜面で登り応えがある。慎重に登ろう！

山頂の眺望は抜群、標高は1700m程だがそれ以上の高さで開放感がある。大船山からの眺望は素晴らしい。由布岳が指呼の距離、双耳峰が特徴的な山だ。吹く風はまさに薫風。5月だね♪♪お目当てのミヤマキリシマは三分咲きでイマイチ花に元気がないもののしっかり鑑賞。満開ならばさぞかし・・・と思う縦走路をミヤマキリシマの堅い枝に行く手を阻まれながら歩く。景色はバッチリ。久住連山・硫黄岳の噴煙も上がっている。さすが火の国・温泉の国おおいだ！！

稜線に出てからイワカガミの群生地があり、下を向いて楚々と咲いている。北大船山をすぎ峠に到着。平治岳の急な登りを横目に見ながら坊ガツルへ下る。坊ガツルまでの下りは火山特有の黒土と火山岩の歩きにくいガレガレ道で、慎重に下山する。坊ガツルから長者原登山口まで約2時間歩き無事到着。食堂で団子汁定食を食べて無事下山を祝う。別府港まで車で移動、出発時間までの待合所でまたしてもアワアワタイム！それにしてもウンミちゃん、よく飲む。「～ほとんど“水”やわ～」。

ミヤマキリシマと温泉、広々とした高原台地と急峻なピーク、ヒオさんの恋バナとウンミちゃんの人生訓、「人生、悩みなし」のお気楽コゴセさん♪



帰りのフェリーでは、「山仲間と遭遇」のおまけ付き。「ええ！なんでここにおるん?!」と、お互いびっくり！こんなところで会うなんて!! 人生、まったく何があるか、わからない・・・。

私の大切な趣味・山登り（最近山遊び）、薫風と噴煙、ミヤマキリシマと与太話を満喫した5月の週末でした。

豆知識

我が家の家庭菜園—2

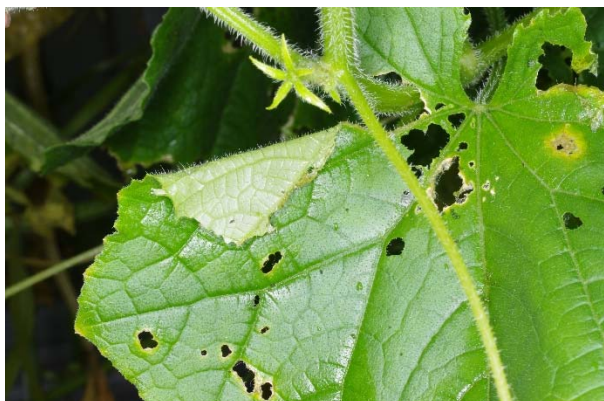
木村 裕

家庭菜園やエコグループのベテランの方、勝手なことを言ってすみません。ど素人のたわ言と聞き流してください。

キュウリは多くの方が5月の連休頃に苗を植えつけ、7~8月頃に収穫をされています。それゆえ我が家にも近所からよくりっぱなキュウリが届きます。

そこで、私は皆さんの菜園で収穫が終わった頃、7月末~8月初めに種をまいて栽培を始めて2年目です。9~10月に収穫できますので、ご近所の皆さんには喜んでもらっています。わずか4本のキュウリですがよく穫れます。

通常の栽培とは違って病害虫はぬけめなく発生します。初期の成長期には、アブラムシ、葉に潜って白い絵描きをするハモグリバエ、白い粉のつくうどんこ病がよく発生しますのでスポット散布で対応。花がつくころには葉に丸い褐色の斑紋を生じるたんそ病が発生しますのでこれもスポット散布。



問題は葉が茂り、花が咲き、実がぶら下がるときに発生するワタクロヘリノメイガです。アオムシが新芽や新葉を糸でつづり、ときにはすでに開いた葉の端をも丸めてつづって葉をガツガツ食べることで、虫自身は葉の中に潜んでいるので発見が遅れがちで、見つけたら葉の上から指で押しつぶしてはいるものの、負け戦です。農薬をまけばいいのですが今日明日に収穫予定の実がいくつもぶら下がっているので困り

ます。また、たんそ病やうどんこ病も勢いを盛り替えしてくるので、実にかからないようスポット散布をしているものの十分ではありません。これらへの対応は次年度の宿題です。

10月末現在、まだ穫れています。



ゴーヤ(ニガウリ)は栽培歴3年です。毎年1~2本の栽培で、よく伸びて日除けに最適ですし、実も大きなのがたくさん穫れています。我が家にはゴーヤを食べる人がいないので、処分が大わらわです。ゴーヤ好きの方にあげてよろこんでもらっていますが、今年はワタクロヘリノメイガが大発生して葉はボロボロ。油断大敵で、反省しきり。

プランター栽培をしている人の話によると、日除けにはなるが、小さな実がなる程度で食用にはとても無理とのことでした。

野菜の種は買えばそれなりの値段で、とくにトマトは高い。そこで必要量(物によっては数粒)だけをまき、残りは冷蔵庫で保管します。数年は問題なく発芽します。トマトでは5年間発芽には問題はありませんでした。

新ならやま投句箱

俳句

早起きやトマト類張り水をやる
夏の夕べくぬぎの酒場賑々し
年古れば姥百合の咲く我家かな
青田中サギ舞い降りて白一点
蝉しぐれ止み原爆の記憶灼熱の朝
炎昼や梅花藻ゆらぐ清流に
いい香り白く輝く花縮紗
水やりはメロン一個のベランダへ
笹刈や炎天下での格闘技
十一面観音堂へ蝉しぐれ
泣きつかれ蝉と一緒に昼寝かな
いぶき山薬草ありと思う今
笹風や襟元ゆるむ秋隣り
ぎいと鳴き蝉の飛び立つ山の道



羽尻 嵩
菊川 年明
古川 祐司
坂東 久平
八木 健彦
藤原 勲
國方 まり子
小島 武雄
中井 弘
鈴木 末一
内河 洋文
福田 美伸
阿部 和生
菊川 年明

新ならやま投句箱への投句有難うございます。今後ともよろしく願っています。

川柳

愛犬も孫が主人の夏休み
名人と言われいそ草を引く
下り坂やつと下りれば膝笑う
伸びしてた猫目ざらりエメラルド
雨よ降れ祈られたから大サービス
日に歳度眼鏡探しが我が日常
JR止まって私鉄の強さ知る
巣鴨ではまだまだ若い席譲る
暑いなあ今日も逃げ込む家の中
柳司
草引き名人
フランカー
たけちゃん
台風七ちゃん
ヨッチャン
チンチン電車
自惚れ人
ぜんさん

短歌

夏休み襲い来たりし孫兄弟
嵐の後に鈴虫の声ひびく
繊維街夕焼けだんだん猫の家
夫住みし地にタイムスリップ
つま
豊田 浩代
千載 輝重

行事案内



「こどもゆめクラブ里山体験」

イベントのご案内

ジュニア自然大学(こどもゆめくらぶ)服部教室が主催する「自然体験講座」を当会が実施主体となって、ならやまにて開催します。ならやまの自然に触れ、里山の保全活動を実体験する事を目指しています。具体的には、農事体験(お米の話、畑での収穫)とビオトープ見学、里山体験(小枝伐採、薪割り)、を通じて里山とは何かを体験していただきたいと思ひます。

実施要領

1. 日時 9月23日(土) 10:30~15:30
前日、奈良県北部の降水確率が50%以上の場合は9月30日(土)に順延。
2. 主な内容
午前:農事(収穫)体験、ビオトープ見学
午後:里山体験と里山遊び
3. 参加者:
ジュニア自然大学から親子24組、
スタッフ13名

以上



美味しい(らしい)きのこ part2 ノウタケ **きのこだより**

高間 祥子

ノウタケは、夏秋頃に林下の地上に発生する、5-15 cm位のふっくらしたパンのようなきのこです。成熟したものは無数のシワが出て「脳」のような形状になります。

「脳」になる前の「パン」に見える時は食べられます。中は真っ白でやわらかいので、ソテーにしたことがあるのですが、特に味も香りもしませんでした。ところが今回調べてみてびっくり! スープにすると良い出汁が出て深いコクと強い旨味を感じるそうです。今度見つけたら、ぜひやってみなくては!!

ネットで見つけたレシピを紹介します。

【ノウタケのスープ】

【材料】

- * ノウタケ ・手のひらサイズ1個
- * ショウガ ・チューブ可、小さじ1
- * ネギの白い部分 ・少々
- * 塩 ・少々 ・水 約500cc

【手順】

1. ノウタケを2ミリ幅程度の薄切りにします。
ネギは薄い小口切りにしておきます。
2. ノウタケを鍋に入れ水を沸騰させます。
沸騰したら火を止めていちど冷まします。
3. 室温まで冷めたら再加熱します。沸騰直前に弱火にし、しょうがとネギを加えます。ネギがしんなりしてきたら、塩で味を整え、完成です。そのまま飲んでも美味しいですが、お肉など具を増やすとより味わい深いスープができそうです。

<https://totte->

[taberu.com/kiroku/kinoko/noutake](https://totte-taberu.com/kiroku/kinoko/noutake)

「東京でとって食べる生活」より



2023年8月度 幹事会報告

開催日：7月25日

- I. はじめに
 - ・7/22 夏だ休みだ里山で遊ぼうイベント
猛暑の中での開催について反省点・改善点、
について意見交換 来期イベントで考慮する
- II. 会計・総務部より
 - ・会員動向：入退会者なし 148名(家族 15名)
 - ・会計：会費納入状況 収支報告あり
- III. 活動・行事関係
 - ・9/23 ジュニア自然大学校こどもゆめくらぶ
予備日 9/30
 - ・10/15 朝日親と子の自然環境教室
予備日 10/22
 - ・10/16 自然教室：馬見丘陵公園観察会
 - ・10/28 芋掘りイベント 予備日 11/4
- *ならやまプロジェクト関係
 - ・水田の除草 7/27・8/3 に行く
 - ・8/10 夏休みだが野菜の収穫と提供を予定
(詳細はエコGにて検討の上連絡)
- IV. 企画、助成金事業案件
 - ・助成金事業進捗記録中
 - ・2024年度助成金1件申請済(里山の保全・
維持・管理)
- V. 広報関係
 - ・ネイチャーなら9月号編成内容について説明
- VI. 報告・連絡事項、その他
 - ・月例研修会：8/1 伊吹山・醒井 定数28
 - ・自然教室：9/4 佐保川小4年生教室内で工作
 - ・NEXO西日本 佐保自然の森で京奈和道計画
関連のボーリング調査
 - ・8/3 新しい里山里海共創プロジェクトへの
協力について徳地先生来訪
- VII. その他
 - ・シニア自然大学校より笹竹活用のお礼報告

以上



スマホは軽く触れるだけで
場面が変わり、何でも調べられ
て超便利な代物だ。今の若者は
幸せだなあ・・・とってしまう。

けれど、電話をかけるつもりもないのに、つ
い指が触れてしまい、アツと思った時はもう遅
く、相手に着信履歴が残ってしまうことがある。
いつも会う人の場合は、「ゴメン、ゴメン間違え
た」。「あ、そう、じゃあまたね」ですぐ切るの
だが、先日、長く会ってない人の着信履歴があ
ったので、翌日かけてみると、案の定間違いだ
った。でも何年か振りだったので「お元気です
か?」、「いやぁもうアカンわ、しんどくなっ
て・・・」から些細な世間話に始まり、お互い
に何歳になった? から財産の整理を始めたこ
とまで伺い、延々と話し続けることになった。
鳥や植物についてたくさん教えていただいた
恩人、すっかりご無沙汰しているが、久しぶり
に懐かしいお声も聞けたし、もうアカンわ、と
おっしゃるわりにはお元気そうだし、着信履歴
が残る機能に感謝した1日だった。

10月ならやま活動&行事予告

- *ならやま活動 10/5 協働活動日
- *朝日親と子の自然環境教室 10/15
予備日 10/22
- *自.教 秋の馬見丘陵公園自然観察会 10/16
- *芋掘りイベント 10/28 予備日 11/4

会員動向(敬称略)
<入会者> 7/27 名倉 三紀子

発行：奈良・人と自然の会
URL : <http://www.naranature.com>
編集代表 Mail: editor@naranature.com
編集委員：青木(幸)・青木(芳)・尾崎
千載・田中(善)・戸田・豊田

表紙写真：8月3日、暑さの中多くの会員が
水田の除草作業に参加しました。